

令和元年度 第1回大和市文化芸術振興審議会 会議要旨

1. 日 時 令和元年8月2日（金）午前10時00分～12時00分
2. 場 所 大和市文化創造拠点シリウス 6階 610大会議室
3. 出席状況 委 員10名（深澤会長、鎌田委員、小林委員、鈴木委員、中島委員、橋本委員、服部委員、伏見委員、吉川委員、米屋委員）
事務局6名（文化スポーツ部長、文化振興課長、文化振興係4名）
4. 傍聴人 なし
5. 議 題
 - 1 開会
 - 2 令和元年度文化芸術顕彰受賞者について
 - 3 平成30年度事業実施報告について
 - 4 平成30年度やまと芸術文化ホールの運営状況について
 - 5 第3期大和市文化芸術振興基本計画について
 - 6 その他
 - 7 閉会
6. 会議資料
 - 資料1 令和元年度大和市文化芸術顕彰候補者（案）について
 - 資料2 大和市文化芸術振興基本計画〔第2期〕実績評価について
 - 資料3 やまと芸術文化ホールの運営状況について
 - 資料4 大和市文化芸術振興基本計画〔第3期〕体系図

【会議要旨】

1 開会

2 令和元年度文化芸術顕彰受賞者について

- 事務局から、「平成30年度大和市文化芸術顕彰（案）について」説明。
- 各候補者、推薦内容と同意見で受賞にふさわしいとの意見が集約された。

3 平成30年度事業実施報告について

- 事務局から、「平成30年度事業実施報告について」説明。
- 委 員：資料2・施策目標6の「施策目標を達成するための主な取組と実績」の項目で、No.2「文化芸術国際交流活動への支援」の交付件数が、平成26年度から平成30年度まで、記載されている5年間すべて0件になっているが、なぜか。
- 事務局：補助金の交付件数であるが、交付を希望する団体がない状況。
- 委 員：5年も0件で、今後も0件であるということであれば、考え直さなければならないのではないか。
- 委 員：文化の枠組みでの国際交流を図ることは、難しいことでもある。
- 委 員：希望はあったが予算化されていなかったために、0件だったという解釈もできる。担当部署から財政部局に対して予算要望をしているのかどうか、聞きたい。
- 事務局：市としては、毎年度予算化をしている。市が主催するものであれば、実施可否を判断することができるが、補助金という仕組み上、市民による活動があってはじめて支援できるも

のである。残念ながら、ここ5年間は補助金を活用して活動しようという団体がいなかった。それが複数年続いているということは、補助金額や制度設計自体に課題があるのかもしれない。ご指摘のとおり、制度そのものの見直しの検討も必要かもしれない。

委員：平等ということも大事だが、大和市として重点的に取り組む事項が欲しい。補助金があるということ、どんなにPRされても、興味がなければそもそも見ない。市が主導して特定の活動している人たちと組んで、その活動を発展させていくような取り組みも支援のあり方のひとつだと思う。

事務局：ご指摘のとおり、メリハリのある支援ということになれば、活動している人たちは次のステップに行きやすいので、行政の支援策として有効である。一方で、税金を使っただいて事業を実施するため、公平性の観点から、全体のバランスをつけて制度設計をしていかなければいけない。文化芸術の振興を図るために、支援策も考えていかなければならないと思うので、我々も肝に銘じて今後活かしていきたい。

委員：音楽家協会にも多様な国籍、出身のメンバーが在籍している。国際交流活動というと、様々な国の人が集まって交流をするパーティのようなイメージを持つのだが、市としてはどのようなイメージを持っているのか、知りたい。

事務局：現時点ではイベント中心の事業展開を図っている。分かりやすい例としては、やまと世界料理の屋台村のように、イベントを大々的に実施し、外国人市民との交流や多文化共生の理解を促すことを目指している。

委員：補助金の募集要項を見ないと細かいことはわからないが、自治体が補助金を出す場合、金額が少ないとか対象経費が限られていることが多く、団体やNPOに対する補助金は、どんどん苦しくなっている。補助率が低いもしくは補助されない可能性がある事業を、団体やNPOがリスクを負ってまで実施するかという課題がある。団体の財政状況が厳しい中で、実現可能な経費や金額が制度として設定されているのかを見る必要がある。もうひとつ、飛行機に乗らなければ国際交流事業が実施できないことも多かったが、近年は在留外国人の方も多くなり、出かけるための旅費を出しますという補助を、活用する団体が少なくなったのではないかと。いずれにせよ、実現可能な金額、対象経費になっているのかどうか、点検できると良いと思う。

事務局：飛行機を使って行くまたは来てもらう交流を図るものと、市域内での交流を図るものという2つに分類できるが、ここにある補助金については、飛行機に乗って交流を図るものに対して支援をするものである。しかしながら、多文化共生は、それだけで達成できるものではないので、様々な角度から事業展開を図っていきたくて考えている。

委員：例えば活動が軌道に乗るまでの5年間は補助金対象とするが、そのあとは自立させる、という補助金が多い。大和の阿波踊りは、外国の方も多く参加するなど、補助金をもらわなくてもすでに文化の国際交流が実現し、自立できている。むしろ本来の形になったから申請がないという可能性もあることから、そういった成果が分かる書き方にした方が良い。

事務局：多文化共生を実現するためには、様々なツールや場面を活用していく必要がある。たまたま、この指標が代表的な指標のように書かれてしまっているが、ご指摘のとおり、ほかの部分で補完できているものもあると思うので、誤解のないようにお願いしたい。

委員：大和市独自でやっているものがあるのに、ここにしっかり出てきていないのは残念である。もう少し、大和市で取り組んでいるものが反映できる表記にした方が良い。

委員：施策目標6については、どこかにポイントを置いて、大和市としては重点的に取り組む事項を決定する必要があるのではないかと。モニタリング項目の評価も「B」や「C」になっている。施策目標2についても、同じくモニタリング項目の評価が「B」や「C」で、市

史にかかる内容を右肩上がりにしていくことの難しさはあるだろうが、この施策目標2と施策目標6をどのようにテコ入れをしていくのか、施策目標6についてはいま様々なご意見をいただいたので、施策目標2についてご意見をいただきたい。

委員：大和市には、核となるような歴史資源がないので、市史をアピールしていくことは難しい。一方で、地域の中で、地域に伝わる歌などを伝承している人はいるはずである。そういった人々を発掘して、それらの文化を継承していくことが、地域伝統文化の発展の理想だと思う。

委員：昭和初期にはじまっている町であることもあり、他の市町村の歴史と比較することは難しい。神奈川県では、海外からの旅行者をうまく取り組むことなど、インバウンドに力を入れている。各市町村の協力を要請されているが、大和市には外国人が来たくするような施設や見どころは少なく、インバウンドの効果を享受しにくい。大和市としては、大和市にお住まいの約1万人の外国人市民のために何ができるのかというところが大切であると思う。インバウンドの取り組みができる市町村は、それを行えばよいわけで、そうではない大和市としては、違う取り組みをしていくことが必要だと感じる。そういった意味では、この取組指標の選択の仕方を、もっとポイントを絞った実効性のあるものにしていくことが必要である。

事務局：担当課も含めて協議していきたい。

委員：大和市は住みやすいということで、外国人の方も多い。わたしも出身は大和市ではないが、いま大和市に住んでいる者として、我々の活動の中で、外国人との交流も図って、貢献していきたい。

委員：施策目標2について、モニタリング項目の評価が「B」や「C」というと低い評価に見えるが、文化の場合は定性的な評価も見ていかなければならない。若い人がこんなに感動していたとか、子どもがこんなに楽しんでたというエピソードも拾えると、世代間の引継ぎもできているという評価もでき、モニタリング項目の定量的な評価とは違い、よい取り組みとして見ることもできるので、定性的評価も心掛けていただきたい。

4 平成30年度やまと芸術文化ホールの運営状況について

○ 事務局から、「平成30年度やまと芸術文化ホールの運営状況について」説明。

委員：シリウスは、使用者側の立場で考えると、子育て世代の親が3階に子どもを預けてホールで音楽鑑賞することができるとか、大きな公演があるときは、図書館で関連図書のコーナーを作って様々な角度から文化芸術を楽しめるなど、複合施設ならではの使われ方をしているのが特徴だと感じる。

委員：7月30日の朝日新聞の社説にシリウスが書かれており、将来を期待されている施設といえる。外から評価されたことはとても大きい。同じような施設がこれから色々なところでできてくることを考えると、先駆者として、また違った取り組みもどんどん実施し、未来を切り拓いていく展開をぜひ期待したい。

委員：プロによるレベルの高い文化芸術ばかりではなく、これまでの地域の文化芸術活動団体のことも踏まえた運営がなされており、市民の様々なニーズに応えるために努力している姿勢をみることができる。

委員：稼働率は好成績という見方ができる一方、稼働率が高すぎて会場が取れないということも起きている。この問題について、ご意見もお伺いしたい。

委員：メインホールもサブホールも使わせてもらったことがある。会場の予約について、11ヶ月前に抽選という方法で行われているが、確率を上げるために、本来は同じ団体にもかか

わらず、複数の人が別団体であるかのように抽選に参加していることもあると聞く。抽選にあたっては、公平性の担保してほしい。

委員：公共施設の予約は、公平平等という観点から、抽選がほとんどである。若い人たちを育てていくという新たな取り組みなど、どうしても必要である民間団体の取り組みの場合は、優先的に予約が取れるなどの仕組みも必要かもしれない。また図書館も、各学習センター図書館同士が連携していくと、より良い環境になっていくと思っている。

委員：今年から、各学習センターは、図書館も含めてすべてシリウスと同じ指定管理者になり、どこでも本を返すことができるようになった。また、市内学校に司書を配置するなど、読書率向上、図書環境向上には、大和市として力を入れている。近隣市町村でも、住所地の図書館に行くよりもシリウスに来る方が便利という人もいて、市外の方々にもシリウスが広く知られることにもつながっている。

5 第3期大和市文化芸術振興基本計画について

○事務局から、「第3期大和市文化芸術振興計画について」説明。

委員：市南部地域は、外国籍の子どもも多く住んでいる。子どもは日本語が上手でも、保護者の方々が、日本語が得意ではない方も多いことを考えると、シリウスを拠点として、保護者向けの日本語勉強会などを開催することも、先ほどの議題に上がっていた文化での国際交流の取り組みとしてできるのではないか。

事務局：ご指摘の日本語を学ぶ機会の提供について、国際男女共同参画課及び大和市国際化協会で、日本語を支援できる体制が構築されている。多文化共生への取り組み事業は、一定程度はできているのではないかという認識でいる。

委員：大和文化百花プロジェクト、経過も含めて素晴らしい取り組みだと思う。若者の力をつかみ上げ、若者たちが動きやすい文化活動を作っていくことはとても大事なことである。

委員：若者だけではなく、人を巻き込んでいくような取り組みがこれからは必要だと思う。

委員：シリウスを利用する人たちの居住地のデータはあるのか。市北部に住んでいる知人が、シリウスに行ったことがないと言っていた。市域のどのあたりは利用率が高くて、どのあたりが低いというデータがあれば、知りたい。

事務局：残念ながら、そのようなデータは持ち合わせていない。

委員：感覚的なものでしかないが、市域によって、シリウスを利用する頻度の差はあるのではないか。また、瀬谷に住んでいる方々のシリウスの利用頻度が高いように感じる。市の北部には公共施設がなかったが、中央林間に図書館が整備されたり、ポラリスができたり、シリウスだけではなくこられの施設も含めて、市民の文化芸術活動を支援できる環境が整いつつあると思う。

6 その他

○市から次回の開催日程について説明。今年度の後半に、第2回を開催予定

7 閉会